

令和7年度 京都大学一般選抜 出題意図等

国語（理系）

- ・「出題意図等」とは、出題意図または標準的な解答例のことです。
- ・入学試験問題の満点や配点については、試験問題に記載のとおりです。
- ・各学部における個別学力検査の配点については、一般選抜学生募集要項に記載のとおりです。
- ・標準的な解答例については、ここに示す表記に限るものではありません。
- ・「出題意図等」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

出題意図 国語（理系）

大問一

出題意図（問題一全体）

問題文は、一九六〇年代の時点での「現代」における「都市化」の進行を題材とし、それが人間の心のありように及ぼす見えざる影響について考察した文章である。展開されている考察を論点に沿って的確に理解し、その理解を明晰で統御された表現によって述べる力を問う。

出題意図（個別問題）

問一：かつての都市が「かわいらしいもの」であったという筆者の表現が意図するところを、都市について筆者が記しているさまざまな叙述を手がかりに理解し、的確に表現することを求める。

問二：筆者が本文において「都市化」をどのようにとらえているかを正しく理解した上で、そこでの人間と自然の関係について、「疎外」という語で何が言い表されているかを明確に説明することを求める。

問三：「大地の感覚」という筆者の表現の意味を的確に理解した上で、これと「自己の存在」との関係をめぐる筆者の考察を適切にまとめ、明確に説明することを求める。

問四：筆者が友人の言葉への「同感」をもとに展開している考察の理路をきちんとたどり、その全体を適切な言葉で明確に表現することを求める。

大問二

出題意図（問題二全体）

問題文は、絵本作家、童話作家、エッセイストとして知られる佐野洋子の著書『友だちは無駄である』のあとがきの一部である。著者がある友人との交わりを振り返り、友人を持つことの意味について、さらには一見無駄と思われるものごとの真の意味について考えを記している。文章の大筋を表面的になぞり、出来合いのパターンに当てはめてさも理解したかのように仕立てるのではなく、その文章ならではの論理や感覚を注意深くとらえて十分に咀嚼し、なおかつその理解をていねいに表現することを求める。

出題意図（個別問題）

問一：著者が経験した状況とその時に感じたことを正確に読み取り、著者と友人との関係を踏まえつつ、著者が了解したことがらを的確に説明することを求める。

問二：著者と友人との間で起きた出来事を、二人のやりとりに基づいて把握したうえで、二人の関係をも踏まえてその意味するところを的確に表現することを求める。

問三：著者が「感謝したい気持ちになった」ことについて、そのような状況に至った経緯を踏まえ、著者がそのような気持ちを抱いた理由を具体的に説明することを求める。

大問三

出題意図（問題三全体）

江戸時代の国学者 本居宣長の随筆集『玉勝間』の中の一編全文である。仮名遣いの学習を主なトピックとしつつ、学問等における望ましい姿勢について論じている。古語および古典文法の正確な知識に基づいて、筆者の主張およびその根拠を適切に読み取り、平易に現代語訳・説明できているかを確認する。

出題意図（個別問題）

問一：文を構成する単語を適切に区切れているか、各語の意味をよく理解しているかを確認する。

問二：文章の展開を適切に把握して、筆者が提示している対立的な捉え方をよく読み取りそれを分かりやすく説明できているかを確認する。

問三：文を構成する単語を適切に区切れているか、各語の意味をよく理解しているか、直訳では文意が十分に伝わらないところについて適切な補充や言い換えができているかを確認する。